

(a)日時及び場所

日時:2017 年 1 月 30 日(月)16:00-18:00

場所:NPO 法人環境市民事務所

(b)理事の総数

15 人(うち定足数 10 人)

(c)出席した理事の氏名(以下、敬称略)

上田正幸、太田航平、瀬口亮子、松田直子、早瀬昇、原田紀久子、下村委津子、杵本育生、以上 8 人。

特定非営利活動法人環境市民定款第 40 条第 1 項の規定により表決権を行使した理事は次の通り。

植田和弘、内田洋子、片山雅男、竺文彦、白石克孝、花田真理子、牧村好貞
以上 7 人。

同定款第 38 条の規定により定足数(理事総数の2/3)を満たし、開会した。

(d)議長 早瀬昇を指名

(e)議事録署名人 上田正幸、下村委津子

(f)議事録作成者 竹村光世

以下詳細

(報告事項)

1) 事業報告

杵本 主要な事業 2 つについて、秋にあった動きをメインに説明する。

石崎 消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワークについて

活動としては大きく 3 つ。1) 担い手を増やすことを目指し、沖縄と長野でセミナーを開催した。どちらも盛況だった。京都では持続可能な消費を目指すを説明する展示を作成し、展示、盛況だった。2) 正式名称が「企業のエシカル通信簿」に決定。調査を実施、現在まとめているところ。3) これまでの「グリーンコンシューマー」の実績のもと、作成。順調にいけば明日にも WEB 公開予定。

環境首都創造ネットワークについては、宇部市でフォーラムを実施。宇部フォーラムは 120 人程度参加者があった。PPS とは、新電力会社。福岡県みやま市で実施。今注目のテーマであるパリ協定を地域から実現していこうということで、モデルマスタープランづくりを

進める。計画の見本づくり。環境首都コンテストをベースに優秀事例を表彰する、自治体の政策を評価する。現在準備して、来年度実施する。フォーラムについては、来年度は奈良市で実施予定。11月ぐらいの予定なので、皆さんにも参加いただきたい。

「私たちの暮らしと SDGs、CSR」東京では流行りだが、関西ではまだというテーマに果敢にチャレンジしてみた。参加者が増えれば増えるほど私たちの収入が増えるので、理事の方にもぜひとも広報協力いただきたい。もう一つイベント紹介、3月3日に池坊大学にて、NGOの勉強会を開催。一般にも開放する形で開催。こちらも広報の協力をお願いしたい。

上田：企業からはどのような反応が予想されるか。

杵本：まだレイティングに慣れていないので、どのような反応があるか予測できない。

2) 今年度収支の見通し

杵本：予算案にあわせて現況を一覧にまとめた。35000円ほどの黒字。余裕がないが、赤ではない。

原田：とても活動が多い。

杵本：主な活動とちょっと手伝っているものがある。

上田：寄付がこれから30万円もあるのか。

杵本：毎日の実績から考えるとそれほど無理な見積もりでもない。NGOだけでやっているNGOネットワークは助成金をもらっている。首都創造のほうでは自治体は5万円の会費をもらっている。別会計なのでこの会計にはのってこない。環境自治体会議は交流メイン。事務局を担っていた方が忙しくて事務を担えなくなっていて、そちらの事務をやってもらえないのか、また活動を合併できないかとの打診があった。会費が入ってくるのは大きいですが、事務ロジが膨大になることが不安。

原田：来年度パナソニックのがなくなるのが不安。

杵本：地球環境基金は来年度もまだある。ミスタードーナツの件はまだ検討中らしい。話は消えてはいない。あまり明るい話はないが、年度末に皆さんにご迷惑かけることはないかな。大規模にはしないが、年度末に寄付キャンペーンはやるつもり。

■ 討議事項

1) 運転資金の借りに関して（助成金支出・受取のタイムラグ）

杵本：地球環境基金等で受け取りまでのタイムラグが発生する。すべて返ってくる資金だが、運転資金として地域創造基金から借りたい。300万円までは実質、無利子なので借りやすいと思うがいかがか？

原田：借りる人が少ないのでもっと活用してほしいと言われている。

早瀬：無利子であれば、借りましょう。

2) 総会の日程について

杵本：できれば予定を皆さんに聞きたい。6月10、11、17、18を候補日。

早瀬：白石先生の都合に合わせてはどうか。

3) 他団体からの共同行動（共謀罪反対）の提案について

杵本：オール京都で

早瀬：自由な市民活動が行いにくくなるという点では環境市民にも大いに関係することなので。

4) 新しい中期計画策定にむけて

松田：理事会での決定を受けて、メンバーで4回ほど集まってきた。大体30代後半の同世代メンバー。

石崎：環境市民はNPO業界では有名だが一般市民にはまだまだ知られていないとの意見が多数で、さらに浸透させて社会変革につなげていきたいということでまとめていった。メイン3つのテーマを中心にまとめている。プロジェクト1 グリーンコンシューマー、プロジェクト2 育てていくこと、環境マイスターの講師など人材育成が必要なので、環境市民を増やしていくという人材育成をしていけば、と考えている。プロジェクト3 ネットワークで生み出していくことを意識している。こういったところを重点的にやっていくべきではという意見が出たのでまとめている。

環境市民の立ち位置を深めていくことが重要と考えている。

松田：人によって重きを置きたいプロジェクトが違うので、まだまとめられていない。共同代表は難しいがまずは副代表からとの意見をまとめている。できれば複数をいれたい。誰がやるかというので変わってくるので、人をはっきりさせたほうがいいと思っている。

早瀬：まずはご質問を。

杵本：これからの5年でなにを実現したいのか？

石崎：見えるものを京都のまちで出していくべきという意見は共通している。

杵本：京都であることに重きをおくのか。

松田：京都というのは日本の中でもブランドがあるので、いかすべき。

原田：若い人があげてくれたことはそれでいいと思う。責任もって関わってくれる、コミットしてくれるということ。まずは杵本さんを支えるという若者が中心になってほしい。

松田：3~5年、杵本塾、人材育成が重要と話している。ゆるやかに代表から引き継いでいくことが必要。

石崎：プロジェクトをきちんと任せてもらえるなら、しっかり責任をもつという人はいっている。

杵本：確かに若い人で複数いるといい。それを理事がサポートできる。

早瀬：日本一、若い人の人口比率が高い京都なので、いいのではないか。

瀬口：京都発というと、ローカルになるのかというイメージを受ける。もう少し全国展開になるビジョンはないのか。

杵本：京都ブランドを利用しながら、東京に影響も与えていかなければならないと感じ

る。

早瀬：グリーンチョイスも全国的な事業。これからどのようにオーソライズしていくか？いつ決めないといけないかまず決めないといけない。

杵本：本来は 2018 年度だが…

原田：前出しで、一部でもやってほしい。

杵本：プレ事業のようなものをのせていかないといけない。

早瀬：副代表は次の総会で決めたほうがいいのではないかな。定款の変更をして、理事会を開催、その場でお披露目という流れ。

杵本：それに伴って準備のプロジェクトが動き始めるといい。

早瀬：もうちょっとプロジェクトの目玉がほしい。

松田：塾で育成してからというイメージなのだが。

早瀬：学んだうえでプロジェクトを動かすために 2 を先行して行うのもありか。

上田：京都発の企業はユニークなところが多い。そこと共同事業できるようになると面白いのではないかな。

杵本：グリーンウオッシュはやっと事業になる。

早瀬：ぜひこの方向で。3 月の理事会の時には、副代表候補が決まっていて、もう少し具体的になってきているという進め方をお願いしたい。

杵本：中期計画は今年一年かけて詰めていけばいい。25 周年はどう進めていいかな。

早瀬：25 周年をいつからいつまでとするか、やり方によっては 3 年間使える。募金などにも活用すればよい。

原田：7 月 18 日に設立記念パーティーをするのは難しい、前日の海の日にしてはどうかな。

早瀬：基本的に設ける形で、遊ぶものがよいと思う。また環境市民に集いたいなど思わせるような。未来が見えてきた感じで。次回は 3 月の終わりごろで調整してもらおう。

■確認事項

次回の理事会は総会後の日程で調整する。

以上